

令和7年度 発生予察情報	発生予報第3号（概要版）	令和7年6月4日発行 宮城県病虫害防除所 (TEL:022-275-8982)
-----------------	---------------------	---

品目	病虫害名	発生予報	病虫害名	発生予報
水稲	いもち病 (葉いもち)	発生時期: 平年並 発生量: 平年並	イネミズゾウムシ	発生時期: 平年並 発生量: 平年並
りんご	斑点落葉病	発生量: 多	キンモンホソガ	発生量: 多
	モモシンクイガ	発生量: やや多	—	—
なし	黒星病	発生量: 平年並	アブラムシ類	発生量: 多
きく	アザミウマ類	発生量: やや多		

発生予報第3号の他に以下の情報が発行しています。

- ・防除情報 第1号 麦類「赤かび病」（令和7年6月4日発行）
- ・防除情報 第2号 果樹類（りんご・なし）「果樹カメムシ類」（令和7年6月4日発行）

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。 宮城県病虫害防除所 https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/ 次回、発生予報第4号の発行日は6月18日(水)の予定です。 ★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で 発生予察情報の発表をお知らせしています★	 宮城県病虫害防除所 トップページ	 メルマガ 登録フォーム
---	---	--

令和7年度 発生予察情報	発生予報第3号 ー水稻ー	令和7年6月4日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	-------------------------

ー6月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月 26～29 日

定点調査:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台5月 29 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期 (発生開始期)	発生量
いもち病 (葉いもち)	平年並 7月第1半旬(7/1～7/5)	平年並

※発生開始期:予防的防除を行わなかった水田において病斑が確認され始める時期

予報の根拠

- (1) 巡回調査において本田では残苗での発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 平均気温が 19℃～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう 1 か月の平均気温は高く(/ +)、降水量及び日照時間がほぼ平年並と予想されている。(± / ±)

病害虫名	発生時期 (侵入盛期)	発生量
イネミズソウムシ	平年並 5月第6半旬(5/26～5/31)	平年並

予報の根拠

- (1) 定点調査における成虫の本田侵入は5月第4半旬から確認され、本田侵入盛期は平年並の5月第6半旬と推測された。(± /)
- (2) 巡回調査の結果、発生地点率及び成虫の発生量は平年並であった。(/ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

(2) いもち病

- ・本田でのいもち病の発生源となるため、補植終了後の苗は速やかに除去し、裏返す等、適正に処分する。
- ・箱処理剤を使用していない場合は、水面施用剤による予防防除を実施する。
- ・予防防除を実施した場合でも、発病が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除する。
- ・BLASTAM による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、以下のサイトを参照する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

(3) イネミズゾウムシ

- ・箱施用剤で防除を行った場合でも、要防除密度(下表)を参考に、必要に応じて茎葉散布剤による防除を実施する。

表1 対象害虫の侵入盛期(平年)と要防除密度

害虫名	発生時期	防除時期		要防除密度
		本年推定	平年	
イネミズゾウムシ	侵入盛期	5月第6半旬 (5/26～5/31)	5月第6半旬 (5/26～5/31)	侵入盛期の成虫密度(畦畔際2m程度):100株当たり140頭 ※晩期栽培の場合は70頭

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー7月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月 26～29 日

天候予報:仙台管区气象台5月 29 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、新梢葉における発生地点率及び発病葉率は平年より高かった。(/+)
- (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
キンモンホソガ	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、新梢葉における発生地点率及び被害葉率は平年より高かった。(/+)
- (2)20～25℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
モモシンクイガ	ー	やや多

予報の根拠

- (1)前年の発生量が平年並だったことから、越冬量は平年並と推測される。(/±)
- (2)20～25℃の気温が成虫の産卵に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤーによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・DMI剤(FRACコード:3)、QoI剤(FRACコード:11)及びSDHI剤(FRACコード:7)並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。

- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)斑点落葉病

- ・発病葉率の高いほ場が確認されたことから、薬剤防除の際は、発病した新梢や徒長枝を取り除き、十分量の薬液を散布ムラのないように散布する。
- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が数日から7日程度と短く、最低気温が 20℃以上で3日以上降雨が続くと急増する傾向がある。今後の発生に注意するとともに、曇雨天が続く場合でも晴れ間をぬって防除を実施するなど、適期防除に努める。

(3)キンモンホソガ

- ・6月以降に発生する成虫は新梢葉を主体に産卵するため、新梢葉での発生状況に注意する。
- ・徒長枝に多く寄生するため、不要な徒長枝は整理する。

(4)モモシンクイガ

- ・産卵場所となりやすい「がくあ部(果頂部)」をよく観察するなどして、防除適期の把握に努める。
- ・殺虫剤散布の補助手段として、交信かく乱剤の使用も効果的である。
- ・被害果(ほ場周辺のうめ、もも、すもも等も含む)は、次世代の発生源となるので、幼虫脱出前に取り除き、5日以上水漬けするなどして適切に処分する。

(5)果樹カメムシ類

- ・防除情報第2号(6月4日発表)を参照：
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/r07yosatsu.html#bojojoho>
- ・フェロモントラップ調査結果：
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html#r7kajukamemushi>

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県
病虫害防除所



メルマガ
登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	発生予報第3号 ーなしー	令和7年6月4日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	-------------------------

ー7月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月 26～29 日

天候予報:仙台管区气象台5月 29 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、果そう葉及び新梢葉における発病は確認されなかった。(/ー)
- (2) 気温 20℃前後で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/±～+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、寄生新梢率は平年より高かった。(/+)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・本県では、DMI 剤(FRAC コード:3)、QoI 剤(FRAC コード:11)、SDHI 剤(FRAC コード:7)の耐性菌は確認されていないが、これらの殺菌剤の使用は、混合剤を含め、それぞれ年2回以内とする。
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)黒星病

- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が 14～30 日であり、まとまった降雨の後しばらく経過してから、急に症状が現れることがある。今後の発生に注意するとともに、防除間隔があかないよう定期的な予防防除に努める。
- ・発病部位は伝染源となるので、見つけ次第除去し、ほ場外へ持ち出して土中に埋めるなど適切に処分する。

- ・不要な徒長枝を取り除き、薬剤が樹木全体に行き渡るように管理する。

(3)アブラムシ類

- ・発生が見られる場合は、他の害虫との同時防除とするが、寄生種により防除効果の高い薬剤を選定する。また、発生状況によっては追加防除を実施する。
- ・薬剤防除を行う際は、新梢等の寄生部位まで薬剤が行き渡るように散布する。

(4)果樹カメムシ類

- ・防除情報第2号(6月4日発表)を参照：
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/r07yosatsu.html#bojojoho>
- ・フェロモントラップ調査結果：
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html#r7kajukamemushi>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県
病害虫防除所



メルマガ
登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	発生予報第3号 ーきく(露地)ー	令和7年6月4日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	-------------------------	-------------------------

ー6月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月 27 日、28 日

天候予報:仙台管区气象台5月 29 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、被害葉率は平年よりやや高かった。(/+)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

2 防除のポイント

(1)アザミウマ類

- ・多発後は防除が困難であるため、ほ場をよく観察し、発生初期の防除に努める。
- ・薬剤散布の予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に前倒して防除を実施する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤防除後に効果の低下が疑われる場合、薬剤抵抗性が発達している可能性があるため、別系統の薬剤を散布する。
- ・ウイルス病は、アザミウマ類やアブラムシ類によって虫媒伝染する。伝染源となる罹病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。
- ・ほ場周辺の雑草は発生源となるので、除草に努める。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県
病害虫防除所



メルマガ
登録フォーム